

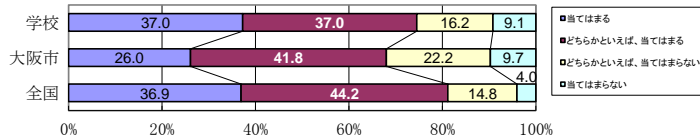
学びの充実に向けて(1)

結果の概要

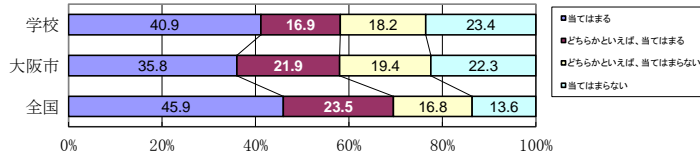
自分の意見を述べる機会があると考えている生徒は、全国よりは少なく、大阪市よりは多い。しかし、読書が好きである、話し合いで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている、と感じている生徒は、全国より少なく、大阪市とほとんど差がない。これは、自分の主張を発言する機会があり、実践もできているわりには、他人の意見や論を参考にして、自分の意見を見直し、よりよいものに高めることができている生徒が多いことを示している。

質問番号	質問事項
------	------

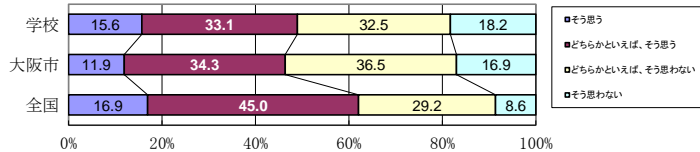
42
1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



53
読書は好きですか



48
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



成果と課題

自分の主張を発表することを、日々の授業や取り組みの中でできる生徒が多くなっている。それは、教科授業だけではなく、道徳や特別活動、校外学習や人権学習での、学年、学級、班といったそれぞれの単位での、事前の調査学習や、その結果発表の機会が多くもたれていることによるものと考えられる。しかし、他人の意見を聞いたり、本を読んだりすることで、自分のものとは異なる考え方を受け入れつつ、自身の心の幅を広げることが不十分である生徒が多いと考えられる。時代の流れとはいえ、書籍にじっくり向き合ったり、互いの顔色や表情、また声色の変化を読み取りながらの、意志や情報のやりとりが行われたりすることが急速に少なくなっていることは、大きな懸念材料である。

今後の取組

少数意見を尊重することが民主主義の前提であることや、たとえ、その会議の流れを滞らせる意見も、はねつけず、まず聞こうとする態度が大切であることを明確化したうえで、話し合いに入ることを心掛けなければならない。その繰り返しにより、発言力の強いものの意見だけでなく、いろいろな人の意見が取り入れられるようになり、考え方の幅が広がられると考えている。また、良書に接することは、自分の意見を改善したり、高めたりするための、もっとも効果的な方法である。生徒が、読書とはよいものだ、読んでみてためになったと思うように、まず、教育に携わる者が、数多くの書籍に接し、良書を生徒に紹介できるだけの引き出しをもつことが、生徒の学びの充実の第一歩になると考える。

学びの充実に向けて(2)

結果の概要

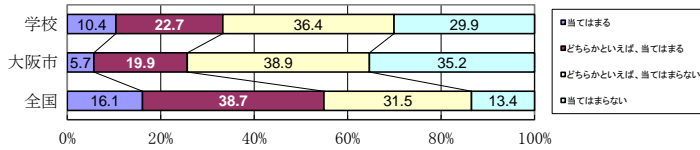
表現力を活かした活動は、ほとんどの質問項目で「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」について大阪市を上まわっているが、全国と比べると、どの項目についても下まわっている。

1、2年生での授業での話し合う活動が少ない状況が結果として表れており、今後、1年生から言語力を育成する取り組みを継続して行う必要がある。

質問番号 質問事項

40

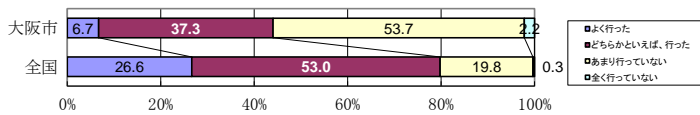
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



42【学校質問紙】

総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか。

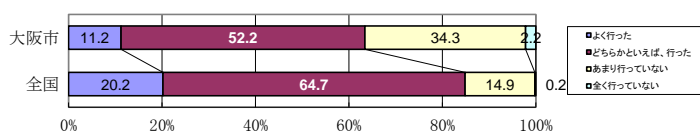
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



30【学校質問紙】

各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか。

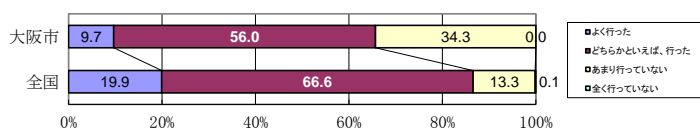
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



41【学校質問紙】

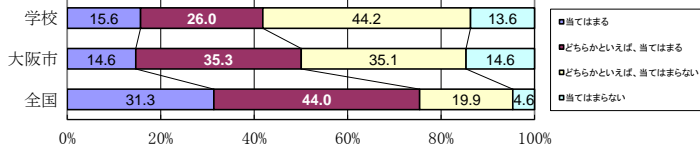
自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



43

1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。



成果と課題

各教科において、表現力を活かした授業を積極的に取り入れたり、「修学旅行」や「職場体験学習」、「福祉体験学習」などの報告会を実施した。少しずつではあるが、このような取り組みの成果は生徒たちの活動の様子からも見られるようになってきている。今後もこうした取り組みを継続することで、表現力の向上が期待される。

今後の取組

授業内での発表や、総合的な学習の時間において体験活動等の報告会や発表を多く取り入れていく。また、1年生から3年間継続して話し合う活動を取り入れ、言語力の育成に努める。

基本的生活習慣

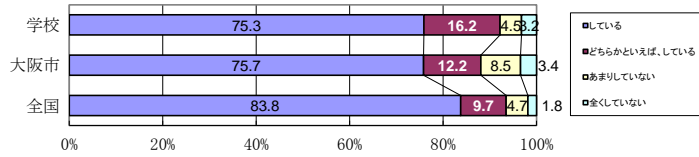
結果の概要

現状としては、「時間を守ること(遅刻)」や「正しい服装をする」、「正しい言葉づかいをする」など生活指導上、まだまだ充分でない課題がある。

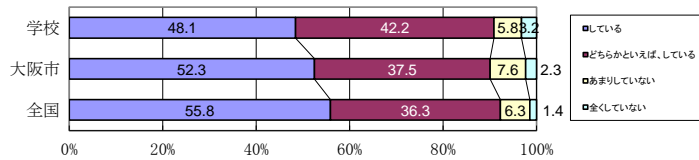
定時に朝食を食べ、家を出ることができる生徒が定着している。携帯電話、スマートフォンの所持率は大変高く、使用時間も長い。

質問番号 質問事項

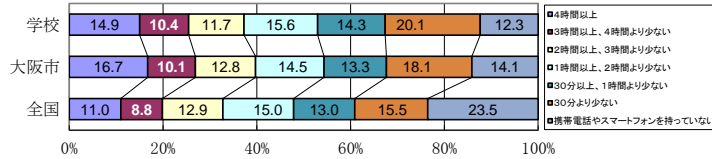
1
朝食を毎日食べていますか



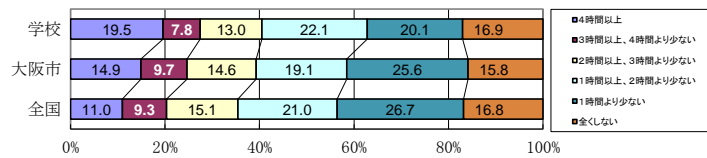
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



13
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)



12
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか



成果と課題

生徒の指導や保護者に対して、それぞれの教員は丁寧に対応している。また、生活指導部や学年等の組織対応も共通理解を図りながら行った。その結果、全学年の生徒が落ち着いた学校生活を送っている。

携帯電話、スマートフォンの使用時間が長いことが、学習の妨げとなったり、生活面での生活規律の乱れであったり、対人関係で問題に発展しているなど、マイナス面としてあらわれるケースが多い。

今後の取組

全校集会や学年集会で、現在している基本的生活習慣が確立できるような話を、さらに工夫しながら全教員で行う。

生徒相談や生徒向けのアンケートなどを実施することで、まず、生徒の状態を知り、正しい生活習慣を指導していきたい。

子どもたちはもちろん、保護者に対しても、携帯電話やスマートフォン使用について考える呼びかけを、定期的に行う必要がある。

家庭学習

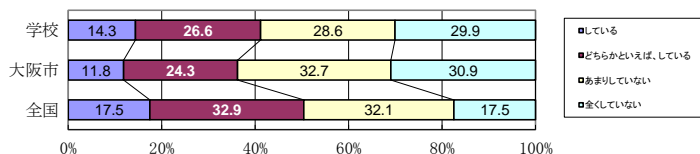
結果の概要

普段から授業、学級活動において「復習の大切さ」、「自主的に学習すること」を啓発している。学習時間については、2時間以上の割合は全国平均を上回っているが、全くしない割合が全国平均の約2倍あるのが懸念される。授業の復習では、「あまりしていない」、「全くしていない」割合が約6割もあり、全国平均を上回っている。計画を立てて勉強についても授業の復習と同じ傾向である。3項目とも全くしない割合が多いのが懸念される。

質問番号 質問事項

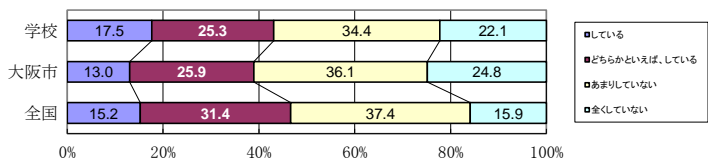
24

家で、学校の授業の復習をしていますか



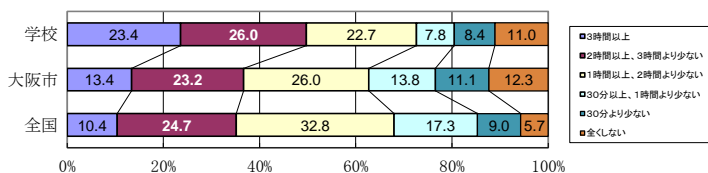
21

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



14

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



成果と課題

授業の復習は、「概ねついてきた」と思われるが、まだ、全国平均より低いいため、一層の啓発が必要である。計画を立てての勉強は、ほぼ全国平均に近いが、生徒に具体的な計画の立て方を示して指導する必要がある。1日当たりの勉強時間については、家庭での協力もあり、全国平均をかなり上回っている。

今後の取組

授業の復習、計画を立てての勉強では各教科の授業、学級活動を通して、自学自習の大切さを指導していく。また、各生徒が自覚して何事にも積極的に取り組ませることで、それぞれの項目を、全国平均を上回るようにしていく。そのためには、家庭との協力が不可欠である。1日当たりの学習時間は、概ね全国平均を上回っているが、自己学習力を育成するために、家庭学習のさらなる意義付けが必要である。

自尊感情・規範意識

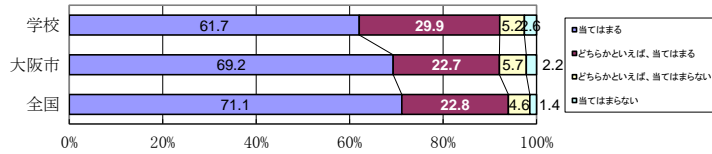
結果の概要

自分の目標を、高く設定しすぎるためか、家庭でもその傾向にあるのか、設定する目標が高いために「自分ではできない」と感じているようにも思える。
校内でのルールを大きくはずすことはないが、自らきっちり守りきろうとする強い意志を持ちきれていない子どもも多にいる。

質問番号 質問事項

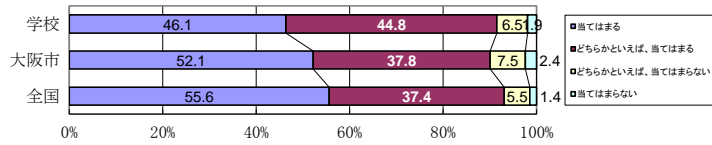
4

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



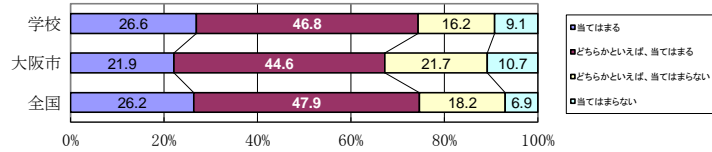
34

学校の規則を守っていますか



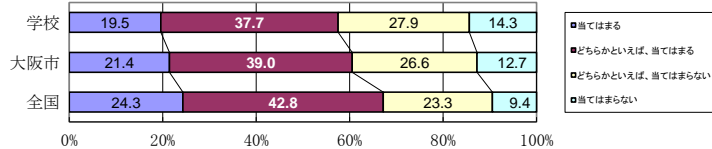
28

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



6

自分には、よいところがあると思いますか



成果と課題

校内のルールなど、守ろうとする生徒がほとんどではあるが、決められたことだけでなく、自ら気づいて行動できる自発的な動きを育てなければならない。

今後の取組

自らやってみようとする気持ち、しんどいことも頑張りがきく粘り強さ、時間をかけて乗り越えてこそその達成感、校内のあらゆる場面で育て、味わわせることを意識していく。

学校・家庭・地域の連携

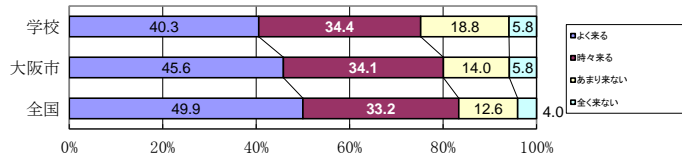
結果の概要

結果に追加して、行事の中でも文化祭、音楽コンクールへの保護者の参観数は毎年増えてきている。すべての項目で、全国、大阪市よりも下回る結果になっている。

質問番号 質問事項

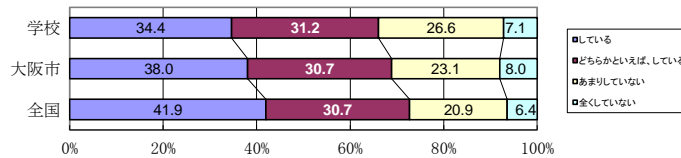
20

家の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



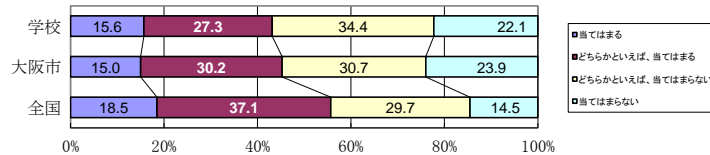
19

家の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか



30

地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか



成果と課題

塾に通う子どもが多く、両親共働きの家庭もあり、ゆっくりと時間をかけて家庭で話をする時間が少ないように思われる。そのため、何かと話題にして話す時間がとりにくい結果と思われる。

「職場体験学習」、「福祉体験学習」、「日本文化体験学習」など地域の協力や人材を活用して行う取組みが年々充実してきている。

社会性をはぐむ取り組みを進めるということで、地域での「生徒会ボランティア清掃」、「親子フェスティバル」、「もちつき大会」のお手伝いを、元気アップ地域本部が中心となってボランティア募集している。

今後の取組

学級や学年単位で、社会に関心を持ち、関わりを持つことの意義をこたあるごとに話をしている。しかし、地域や社会で起こることへの関心は、少ないという結果になっている。そこで、学級や学年だけではなく、道徳や総合的な学習の時間、教科の時間等で意識させていく必要がある。

さらに、全校集会や学年集会等を利用して、さまざまな出来事にあらゆる方向から話をする機会を継続していく。具体的には、体験学習を通じて、地域との関わりを意識させていく必要がある。

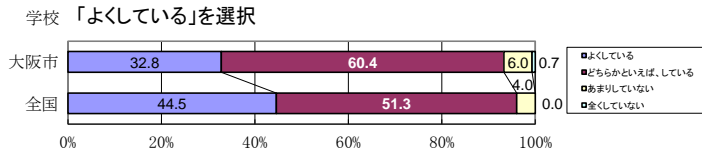
学校組織の改善

結果の概要

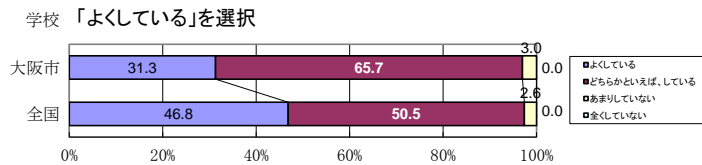
学校の状況や課題を教職員間で共有し、組織的に取り組んでいると言える。週1回、組織の中心となる、主任や主事によって構成されている主任会を開き、教育の課題を検討し教育方針を出している。
月1回、学年会、校務部会、また、全教職員が集まり、共通理解を図り、方針を確認し、組織的に取り組んでいる。
授業研究は全校態勢で年6回は実施しており、研究協議においては、ワークショップ形式で全教員が5班から6班に分かれて協議しており、実践的な研修となっている。
また、全教員が1回は指導案を作成し、授業研究を行っている。空き時間の教員が中心となって参加し意見交換を行っている。

質問番号 質問事項

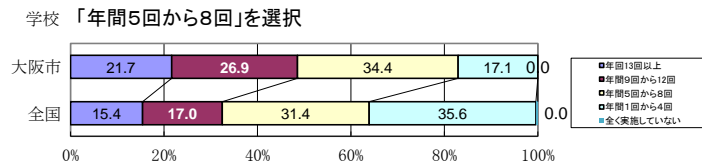
98【学校質問紙】
学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか



96【学校質問紙】
学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか



89【学校質問紙】
授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか



成果と課題

学習につながる特色ある取り組みを推進しており、生徒の指導や保護者に対して丁寧に対応しているため、入学当時に比べて全学年の生徒が落ち着いた学校生活を送っている。
行事の企画、生徒指導、教材研究に膨大な時間が費やされ、教員の心身両面での疲弊が課題である。行事の精選や問題行動の処理に追われる生活指導ではなく、未然防止につながる積極的な生活指導を推進していく必要がある。また今後、道徳教育の充実に取り組んでいく。

今後の取組

引き続き、『何ごとにも「心」をこめて行動しよう』を目標に、気持ちよく挨拶のできる生徒、心をこめて人の話を聞ける生徒、ルールやマナーを守る生徒、自らすすんで掃除をする生徒を育成していく。
本校の、特色ある取り組み、ピア・サポートによる集団育成、授業改善による授業力の向上を図り、地域や保護者に発信することで、子どもを安心して通わせることができる学校づくりをしていく。